日本財団聴覚障害者奨学金事業
第 12 期生　西　雄也

夏学期レポート

サマークラス開始前の夏休みはラスベガスやロサンゼルスへ旅行したり、友人と誕生会や BBQ、泳ぎに行ったりと余暇を楽しんだ。サマークラスについては、一段上のクラスを進めようと考えていたが、サマークラスは一学期分を八週間で進めるため、授業の進むスピードが速いだけでなく、宿題の量も多めである。引越しの準備のことも考慮に入れ、春学期と同様のレベルの Writing151A を受講することにした。

≪サマークラス≫

サマークラスは６月１９日から開始し、Writing クラスの内容は、教授の方から出されたテーマをもとにパラグラフやエッセイを書いていくという取り組みを行った。文法に注意しながら、文を構成していくという勉強も行い、その内容はテキストに従って進められた。また、この Writing クラスに必要なラボワークを行うことを中心にクラスが進められた。サマークラスが開始してからは、週一でチューター（担当はアン先生にしていただいた。）を受けた。しかし、相手の都合により、サマークラスの前半の時はチューターを受けることが出来たが、後半は受けることが出来ないという問題が生じた。サマークラスの後半に差し掛かるにつれて、内容のレベルが上がり、パラグラフの書き方が、これまでに学んできた書き方と少し違っている事があったため、戸惑うこともあったが、サマークラスの後半からは ASL でチューターをしていただける方がいないため、クラス終了後に英語クラスの教授に質問したり、メインストリームクラスのチューターと筆談でやり取りするなどの方法をとりながら進めた。このクラスを通じて、エッセイを書く基礎を更に深め、これまで学んできたことの再学習やエッセイの新たな表現方法を学ぶことができたと思っている。

≪生活面≫

【引っ越しの準備と送別会】

この春、ギャロデット大学大学院より入学許可を受け取った。合格通知をいただいた時は嬉しさの反面、ついていけるかどうか心配な気持ちもあったが、前向きに学んでいけるよう頑張っていきたい。また、カリフォルニアを去る前に、オーロニ大学でお世話になった先生方とカウンセラー、様々な友人達とそれぞれ送別会を行った。仲良くなった友人やお世話になった先生方の別れを考えると寂しい気持ちが巻き起こったが、今後再会できることを願いながら、寂しくも楽しい送別会になった。さらに八月の中旬頃まで、ギャロデッド大学大学院があるワシントン DC まで引越しの準備とサマークラスを同時進行しながら進めるという、少々慌ただしいスケジュールであったが、同様に充実した期間でもあった。

秋学期からは晴れてギャロデッド大学大学院の学生となり、慣れ親しんだカリフォルニアを離れるのは寂しいが、新たな生活に期待し、充実したものとなるようにしていきたい。